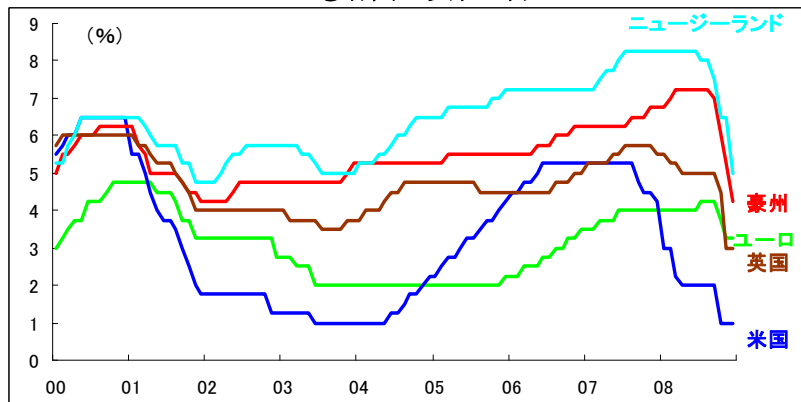


12月2日にオーストラリア連邦準備銀行(RBA)が政策金利を1%下げ、4.25%としたのに続き、4日にはニュージーランド準備銀行は1.5%の利下げを発表し、政策金利を5%としました。今回はこの点に焦点を当ててみました。

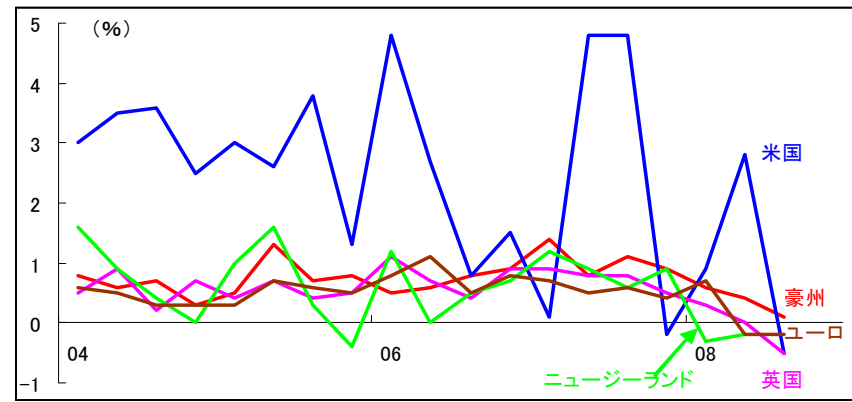
豪州およびニュージーランドの利下げに限らず、主要国の中央銀行は相次いで利下げを実施しています(図表①参照)。その背景には、金融危機への対処に加え景気後退・リセッションへの配慮が挙げられます。実際、豪州を除き米国、ユーロ圏、英国およびニュージーランドのGDP成長率(対前期比)はマイナス化しています(図表②参照)。また遅行指標である、失業率も豪州での底堅さ(図表④参照)の一方、その他の国では景気後退の深化を示唆しています(図表③④参照)。各国の利下げの幅を見ても、景気後退にそれぞれ対応したものとなっているようです(図表⑤参照)。ただ豪州の経済指標には、今のところ米英を中心とした深刻な悪化というほどの悲惨さはありません。しかしその割に利下げの幅は大きくなっているようです。この現状を見て市場参加者の一部には、豪州の利下げは、景気の後追いではなく前倒し的なものであるとの認識があるようです。

<①各国の政策金利>



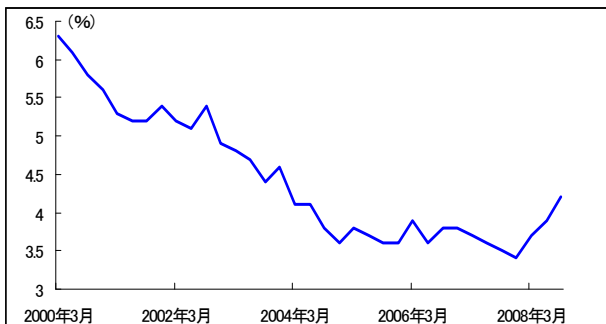
出所:ブルームバーク

<②各国のGDP成長率(対前期比)>



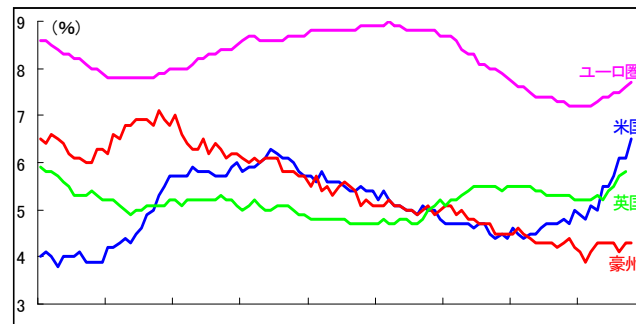
出所:ブルームバーク

<③ニュージーランドの失業率(四半期ベース)>



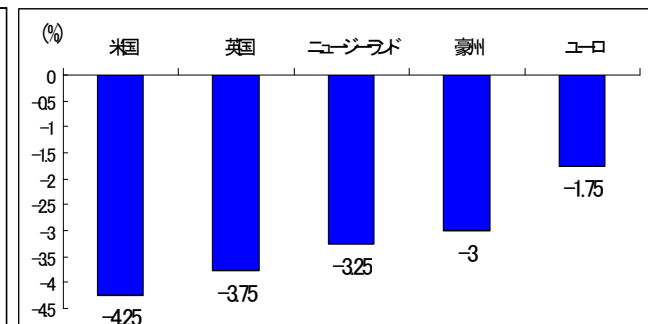
出所:ブルームバーク

<④各国の失業率(月次ベース)>



出所:ブルームバーク

<⑤政策金利直近のピークから現在までの利下げ幅>



出所:ブルームバーク(注)12月5日現在